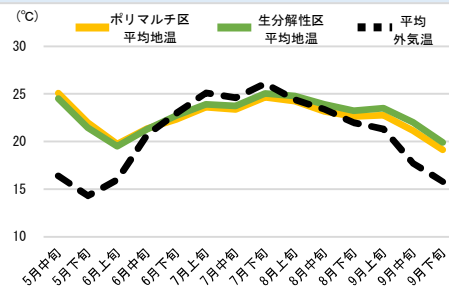


## 背景・目的

環境負荷の低減や省力化に向けた効果が期待される、生分解性マルチについて、大玉トマト‘麗月’を栽培し、ハウス内での長期どり作物への使用適性を調査しました。

## 結果

試験区	使用マルチ（色：ダークグリーン）
ポリマルチ区	ユニカーマルチ（厚さ：0.020 mm）
生分解性マルチ区	ビオフィレックスマルチプラス（厚さ：0.018 mm）



マルチ内平均地温、平均外気温（アメダス、旭川）の推移

### 生分解性マルチの特性

- ・栽培期間中の地温はポリマルチと大きな差はなかった。
- ・敷設時の作業性に大きな差はなかったが裂けないように丁寧に扱う必要があった。
- ・被覆性はポリマルチと同等。  
（定植穴からの裂けが一部で見られたが、マルチ下灌水には影響がなかった。）
- ・透湿性が高いため、圃場が乾きやすい。

定植穴の裂開の様子



5月14日（穴あけ2日後）



10月1日（穴あけ142日後）

マルチの状態



5月14日（穴あけ2日後） 7月19日（穴あけ68日後） 10月1日（穴あけ142日後）

埋没部の様子



7月18日（敷設71日後） 10月1日（敷設146日後）

### 生分解性マルチの収量性

	総収量 (kg/a)	規格内 収量 (kg/a)	規格外 収量 (kg/a)	規格別収量 (kg/a)					平均 1果重 (g)	規格外要素別収量 (kg/a)		
				3L	2L	L	LM	M		S	とがり果	尻腐果
ポリマルチ区	1,556	999	557	68	108	242	250	206	125	168	108	26
生分解性区	1,547	1,013	534	25	98	211	282	257	140	161	68	52

- ・総収量、規格内収量はポリマルチ区と同等だった。ただし、「LM」「M」「S」サイズが多く、小玉傾向だった。
- ・規格外要素は、「とがり果」は少なく、「尻腐果」が多かった。

### 結果の活かし方

生分解性マルチは、栽培期間における被覆性に問題はなく、やや生育の遅れは見られましたが、同等の収量が得られ、ハウス内での長期どり作物に使用できる資材であると考えられました。ただし、透湿性が高いため、灌水頻度を多くする必要があります。